



TITLE:

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ズ

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ズ. 經濟論叢 1916, 3(3): 377-404

ISSUE DATE:

1916-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127082>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

大正五年九月一日發行

第三號

第三卷

論說

聯合國經濟同盟ニ對スル我國ノ態度

國防稅ノ當否(二)

でうゐつご・ひゆーむノ經濟學說(五)

『座』ノ研究(二)

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ズ

資本ノ眞概念ノ發展(二)迄

雜錄

小野塚牧野兩博士ノ新著

不換紙幣流通ノ根據ニ就博士ニ答フ

びゆつひあーノ經濟階段說ハ其獨創ニ非ズ

最低賃金ノ制度ニ就キテ

日英ノ物價

手ノ器用ト其脩養

『通俗經濟文庫』卷一ヲ讀ミテ

『瀧本誠一氏ノ草莽危言義解題ニ就テ』ノ補遺

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

法學博士 福田 德三

文學博士 三浦 周行

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

山本美越乃

法學士 河田 嗣郎

法學士 財部 靜治

法學博士 河上 肇

鈴木 券太郎

(載 轉 禁)

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

小川 郷太郎

余ハ前號ニ於テ在外正貨ト兌換券トノ關係ヲ論スト云フ題ノ下デ、在外正貨ガ増加シタトテ、必ズシモ、常ニ兌換券ノ増發トナラヌ所以ヲ明ニシタ、ソコデ、余ハ本號ニ於テ更ニ進デ兌換券ト物價ト輸出入トノ關係ヲ論ジ、物價騰貴ハ常ニ必ズシモ兌換券膨脹ヨリ來ルモノデナイコト、物價ノ騰貴ハ常ニ必ズシモ輸出減退輸入増進ヲ來スニ限テ居ナイコトヲ明ニシタイ、從テ本篇ハ前篇ノ續キトモ見得ベキモノデ矢張り在外正貨處分論ヲ攻撃スルコトヲ趣旨トスル

本篇ニ於テモ界見ヲ述ベソツ河津博士并ニ三宅嘉十郎氏ノ高教ニ對シテ御答ヘナスル積リデアル、問題ハ自然ニ二分レル、第一ハ兌換券増發ト物價騰貴トノ關係デ、第二ハ物價騰貴ト輸出入トノ關係デアル、

第一 兌換券ト物價トノ關係

兌換券ト物價トノ關係ニ就テハ二ノ論點ガアル、其一ハ一般問題トシテ兌換券ガ増發セラルレバ物價ハ騰貴スルヤ、兌換券ノ増發ハ物價騰貴ノ原因ナリヤ結果ナリヤト云フコトデ、其一ハ具體的問題トシテ昨年下半年來ノ、我國物價騰貴ハ兌換券ノ膨脹ト如何ナル關係ヲ有スルカト云フコトデアル

一

第一ノ問題ハ理論的問題トシテ從來學者ノ間ニ論争ノ絶エナイモノデアル、又我國ニ於テモ既

ニ先年來矢筈シキ議論ヲ起シタコトガアル、此等ノ學說ヲ紹介シ批評スルコトハ本篇ノ趣旨デハナイ、併シ多少、根本的ニ學理ニ溯テ考テ見ネバナラス、其前ニ先ヅ卑見ニ反對セラル、河津博士ノ說ヲ窺テ見ヤウ。

河津博士ハ此問題ニ就テ肯定的斷案ヲ下サレ、⁽¹⁾「他ノ事情ナケレバ兌換券發行高ガ増加スレバ物價モ騰貴スル傾向ヲ生ズベシ」ト云ハレテ居ル。蓋シ博士ノ根本ノ考ハ貨幣數量說ニアルノデハナイカト思フ。

兌換券ノ増發ガ物價ヲ騰貴スルト云フ說ハ、兌換券ノ數量ガ其購買力ニ影響シ、一般的ニ物價ヲ騰貴スルト云フノデアル、從テ一般ノ財ノ需要ヲ殆ト一定不變ノモノト考テ居ル、少クトモノノ財ニ對スル需要カ増ストセハ、他ノ財ニ對スル需要ハソレ丈ケ減スルモノト考テ居ルト云ハナナラス、併シ乍ラソレバ當ヲ得ナイ觀察デアル。

第一ニ兌換券ノ數量ガ購買力ニ影響シ一般的物價ヲ騰貴スト云フナラハ、普通ノ場合タルト、好景氣ノ場合タルト、恐慌ノ場合タルトヲ問ハズ、等シク其眞理ヲ發揮セチハナナラス譯デアル、ガ、吾人ハ少クトモ、之ニヨリテ恐慌ノ現象ヲ説明スルコト出來ナイ、恐慌ハ兌換券ガ膨脹シキツテ居ル時ニモ起ル、然ルニ恐慌ガ起レハ物價ハ下落スルヲ常トスル、兌換券カ膨脹シテ居ツテ物價カ下落スルノハ偶々以テ兌換券ノ膨脹カ物價騰貴ノ原因ナリトスル說ノアテニカラスコトヲ反證スルト云ハチハナナラス、論者或ハ恐慌ノ時ニ物價ノ下落スルノハ兌換券ガ收縮スルニ因ルト云フモノガアラウガ、ソレハ原因ト結果トヲ顛倒シテ居ル、物價ガ下落シタレハコソ兌換券ガ不用

トナリタノデアル、兌換券カ收縮シテ後物價ガ下落シタト見ルベキデナイ。

次ニ財ノ需要ガ一定不變デアルトスルハ勝手ニコシラヘタル假定論デアル、實際ハ必スシモサウデナイ、若シ財ノ需要ガ一定不變デアリトスレハ、ソハ少クトモ消費財ニ於テ云フベキコトデアラウ、蓋シ消費財ノ需要ハ所得ニ限ラレチハナラヌカラ一ノ消費財ニ對シテ需要大トナレハ他ノ消費財ニ對シテハ需要ヲ減スルコトアルカラデアル、然ルニ資本財ニ至テハ全ク之ニ反シ、需要ハ供給ニ超ユルコトガアリ、一ノ資本財ニ對シテ需要起レハ從テ他ノ資本財ニモ需要カ起ルコトガアル、決シテ財ノ需要ガ一定不變ト云フコト出來ナイ、果シテ然ラハ「他ノ事情ガナケレバ」トカ other things remaining equal トカ云フノハ、事實ニ合セナイ假定論ト云ハチハナラヌ。

此ク論シ來レハ物價ノ變動ハ、貨幣ノ購買力即チ貨幣ノ需要供給ノ關係ヲ見ルト共ニ財ノ需要供給ノ關係即チ財ノ交換價值ヲ見チハナラヌ、

思フニ經濟ノ發達セサリシ時ニ於テハ、取引ハ主トシテ、消費財ニ就テ行ハレタモノデアツタカラ、其時代ニテハ貨幣ノ需要供給ニヨリテ物價ヲ説明スルコト或ハ左程不當ノコトデモナカツタラウ、然ルニ今日ノ如ク經濟發達スレハ資本財ニ就テノ取引ハ段々盛トナツテ來ル、資本財ノ取引ガ消費財ノ取引ヨリモ大ナレハ大ナルニ從テ、一般ノ財ノ需要供給關係カ物價ニ及ボス影響ハ貨幣ノ需要供給關係カ物價ニ及ボス影響ヨリモ更ニ大トナツテ來ル、從テ物價ノ變動ハ一般ノ財ノ需要供給關係デ説明スル方ガ却テ適切トナル、戰爭ニヨリテ財ノ需要供給關係カ大ニ亂サレタ場合ニモ亦サウデアル。

戰爭ニ於テハ或ル種ノ財ニ特別ノ需要ガ起ルノミナラズ、外國貿易ノ障礙ニヨリテ供給ヲ得ルモノモアリ、需要ニ對シ供給ノ伴ハヌコト起リ得ベキデアル、斯クシテ物價ノ騰貴ヲ來ス、物價騰貴シテ兌換券之ニ續テ出ツルコトアリ得ベキデアル、コハ既ニ三月號ノ雜誌ニ述ヘタレハ、茲ニ再ヒ贅セナイ、此點ニ就テハ、河津博士モ承認シテ居ラレルラシイ、

余ハ茲ニ好景氣ノ場合ニ就テ少シク論シテ見ヤウ、好景氣ノ場合ニ於テハ人ハ皆爭テ事業ヲ起サウトスル、事業ヲ起スニハ資本財ヲ要スル、從テ資本ガ非常ニ固定セラレル、ソレニ續テ原料モ入用トナリ、他ノ流動資本モ入用トナリ、一般的ニ財ノ需要カ大ニ起ル、從テ物價モ騰貴セサルヲ得ナイ、全體一國民ノ財ノ需要ト供給トハ平時ニ於テ、相互ニ權衡ヲ保チ其時ニ存セル所得若クハ財産ヲ最高限度トスルヲ常トスル、然ルニ好景氣ノ場合ニハ一般的ニ財ノ需要大ニ起ルカ故ニ、其時ニ存セル所得若クハ財産ニ基ケル購買力ノミニテハ足ラナイ更ニ將來ノ所得ヲアテニシテ購買力ヲ擴張セネハナラヌ、是ニ於テトドノ詰リ中央銀行ニ走り融通ヲ求メテハナラヌ、中央銀行ハ之ニ對シテ正貨準備ヲ超エテ兌換券ヲ發行スルコトニナル、中央銀行ガ正貨準備ノ範圍内ニ於テ兌換券ヲ發行スルハ全ク之ト異リ、一人ヨリ他人ニ購買力ヲ移轉スル場合ト同一視スルコトガ出來ル、一人ヨリ他人ニ購買力ヲ移轉スルハ、信用ハ同ジク信用ナレトモ、之カ爲ニ國民ノ總購買力ヲ變シナイ、從テ一般的ニ財ノ需要ヲ増シタト云ヘナイ、中央銀行カ、正貨準備ヲ有シテ居リ之ニ對シテ兌換券ヲ發行スル場合ハ又之ト同様ニ、現在存スル財ヲ基礎トスルモノデ、國民全體カライフテ、其總購買力ヲ増スモノデナイ、決シテ將來ノ所得ヲアテニシテ、購買力ノ擴

張スルモノト云フコト出來ヌ、然ルニ好景氣ニ際シ一般的財ノ需要ガ大トナル場合ニハ將來ノ所得ヲアテニシテ、購買力ノ擴張ヲ計ラチハナラヌ、故ニ中央銀行ハ正貨準備ヲ超テ兌換券ヲ發行スル場合トナラサルヲ得ナイ、而シテ此ノ如キ場合ニハ前述ノ如ク物價ガ騰貴スル、尤モ物價騰貴ト云フモ其原因ハ一般的ニ財ノ需要ガ大トナツタニ存スルノデ、兌換券ハ之ニ付テ發行セラルルニ過キナイ、故ニ兌換券ノ増發ヲ以テ物價騰貴ノ原因トナスコト出來ヌ。

以上ハ主トシテ好景氣ノ場合ニ就テ論述シタノデアルガ、之ニヨリテ吾人ハ物價變動カ正貨準備ヲ超テ兌換券ヲ發行スル場合ニ起リ正貨準備内ニ兌換券ヲ發行スル場合ニ起ラサルコトヲ知り得タ、是レ實ニ重大ナル結果デアル。

此點ニ就テハ余ハ Eggenschwyler ノ研究ニ負フ所多イ、氏ハ啻ニ理論ノ上ニ於テ研究セルノミナラズ又統計ノ上ヨリモ之ヲ立證セントシテ居ル、最近ニハ Statistisches Problem : Krieg, Produktionsfortschritt u. Preisbewegung³⁾ ノ題下ニ於テ物價ノ變動ト Ungedecter Kredit トノ並行ヲ統計上證明シテ居ル、茲ニ少シク氏ノ研究ヲ紹介シテ見タイ、

歐洲ノ物價ハ大體ニ於テ奈翁戰後ニ於テ下落シ、一八五〇年頃ヨリ騰貴シテ一八七〇頃迄ニ至リ一八七三年ヨリ一八九六年頃迄下落シ、一八九七年頃ヨリ一九一二、三年頃迄再ビ騰貴シタルモノデアル、ソハ次ノ表ニヨリテ之ヲ證明スルコト出來ル、

- 3) Eggenschwyler: Über die Ursachen der Teuerung (Jahrbuch für National-ökonomie u. Statistik III Folge. 46 Bd. 60 Heft. S. 762-).
Prinzipielles zur Erforschung der Teuerung (Schmollers Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung u. Volkswirtschaft im Deutschen Reich 38. Jahrg. 1. Heft S. 115-) Geldmenge, Wohlstand u. Preise (Schmollers Jahrbuch. 38 Jahrg. 4 Heft S. 99-) Produktionsfortschritt u. Teuerung (Schmollers Jahrbuch 39. Jahrg. 2 Heft. S. 101-)
- 4) Schmollers Jahrbuch 39. Jahrgang. 4. Heft. 1915 S. 343-

年次	Index Sauerbeck 45. Art en gros	Index March 43 Art.	Hamburg Import nach Hooker	Ver. Staaten 223. u. 260 Art.
一八五〇	七		一〇	一
一八五一	六		一〇	一
一八五二	六		一〇	一
一八五三	六		一〇	一
一八五四	六		一〇	一
一八五五	六		一〇	一
一八五六	六		一〇	一
一八五七	六		一〇	一
一八五八	六		一〇	一
一八五九	六		一〇	一
一八六〇	六		一〇	一
一八六一	六		一〇	一
一八六二	六		一〇	一
一八六三	六		一〇	一
一八六四	六		一〇	一
一八六五	六		一〇	一
一八六六	六		一〇	一
一八六七	六		一〇	一
一八六八	六		一〇	一
一八六九	六		一〇	一
一八七〇	六		一〇	一
一八七一	六		一〇	一

年次	Index Sauerbeck 45. Art en gros	Index March 43 Art.	Hamburg Import nach Hooker	Ver. Staaten 223. u. 260 Art.
一八八一	七		一〇	一
一八八二	六		一〇	一
一八八三	六		一〇	一
一八八四	六		一〇	一
一八八五	六		一〇	一
一八八六	六		一〇	一
一八八七	六		一〇	一
一八八八	六		一〇	一
一八八九	六		一〇	一
一八九〇	六		一〇	一
一八九一	六		一〇	一
一八九二	六		一〇	一
一八九三	六		一〇	一
一八九四	六		一〇	一
一八九五	六		一〇	一
一八九六	六		一〇	一
一八九七	六		一〇	一
一八九八	六		一〇	一
一八九九	六		一〇	一
一九〇〇	六		一〇	一
一九〇一	六		一〇	一
一九〇二	六		一〇	一
一九〇三	六		一〇	一

一八七三	一一	一六	一六	一九〇四	七	103	101	113
一八七四	一二	一四	一四	一九〇五	七	103	103	113
一八七五	九六	一八	一五	一九〇六	七	113	111	113
一八七六	九六	一四	一四	一九〇七	八	113	112	113
一八七七	九六	一五	一五	一九〇八	七	113	111	113
一八七八	八七	一三	一四	一九〇九	七	113	111	113
一八七九	八三	一三	一六	一九一〇	七	113	112	113
一八八〇	八三	一三	一六					

此一世紀間ノ物價騰落ニ於テ兌換券ノ發行高又預金其他銀行債務ノ變動ハ歐米諸國ニ於テ色々
 ニナツテ居ツテ比較ニ困難デアルガ、何レノ國ニテモ正貨準備ヲ超エタル兌換券ノ發行額ト物價
 ノ變動トガ相並行シテ居ルノヲ見ル、左ノ表ハ之ヲ證明スルニ足ル

年 號	英 蘭 銀 行	獨逸帝國銀行	佛蘭西銀行	伊太利銀行
一八九〇	1074 (百萬磅)	1374 (百萬磅)	1074 (百萬磅)	1074 (百萬磅)
一八九一	1133	1374	1111	1000
一八九二	1133	1374	1111	1000
一八九三	1133	1374	1111	1000
一八九四	1133	1374	1111	1000
一八九五	1133	1374	1111	1000
一八九六	1133	1374	1111	1000
一八九七	1133	1374	1111	1000
一八九八	1133	1374	1111	1000
一八九九	1133	1374	1111	1000
一九〇〇	1133	1374	1111	1000
一九〇一	1133	1374	1111	1000

一九〇二	11.14	12.14	13.14	14.14	15.14
一九〇三	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14
一九〇四	9.10	10.11	11.14	12.14	13.14
一九〇五	11.14	12.14	13.14	14.14	15.14
一九〇六	9.10	10.11	11.14	12.14	13.14
一九〇七	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14
一九〇八	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14
一九〇九	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14
一九一〇	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14
一九一一	10.11	11.14	12.14	13.14	14.14

之ヲ見ルト何レノ國ニテモ一八九〇年ヨリ以後ハ正貨準備ヲ超ユル兌換券ノ發行ハ非常ニ少クナリテ一八九五六年頃ニ至テ極テ居ル、丁度ソレガ前表物價ノ最モ下落シタトキト相應シテ居ル、其後一八九九年、一九〇七年、一九一一年頃ニ非常ニ膨脹シテ居ル、丁度前表ノ物價ノ騰貴セル時ト相應シテ居ル、

以上ハ Heggenschwyler ガ歐米諸國過去ノ歴史ニ就テ研究シタル結果デアルガ、是ニ由テ觀ルト正貨準備ヲ超エタル兌換券ノ發行ハ物價騰貴ニ關係アルコトヲ知ルコトガ出來ル、之ヲ裏カライフト正貨準備ニ應スル兌換券ノ發行ハ物價騰貴ニ關係アリト斷スルコト出來ヌ、此論理ヲ我國ノ現今ニ應用スルト在外正貨ノ爲ニ兌換券ガ出タトスルモノハ物價騰貴ヲ起スモノト云ヒ得ラレヌコトナル、余ハソコデ進デ我國昨年來ノ物價騰貴ヲ研究セザバナラヌ、

二

我國昨年來ノ物價騰貴ハ兌換券ト如何ナル關係ヲ有スルカト云フニ、余ハ三月號ニ於テ「最近ノ

物價騰貴ハ兌換券が多ク出タ結果ダト説クベキデナク却テ諸種ノ財ノ供給ガ少イト云フコト又需要ノ大トナツテ來ダト云フコトニ因ルモノト説カチバナラヌト論シタ。之ニ對シ三宅氏ハ部分的ニ之ヲ承認セラレテ居ルガ「ソレト同時ニ尙昨年來ノ物價騰貴ノ或ル種ノモノハ兌換券ノ膨脹ニ依ラサレバ説明シ能ハズト説カレ、殊ニ、(一)物價ノ騰貴ガ我輸出ノ盛トナリシ時期ニ後レテ現ハレタルコト及ビ(二)物價騰貴ノ現象ガ一般的ナルコトノ二個ノ事實ハ是非トモ兌換券膨脹ニ其原因ヲ求メザルヘカラズ」ト斷セラレテ居ル。

三宅氏ノ此議論ヲ推スニ其根本思想ハ貨幣數量説ニ在リト謂ハチバナラヌ、而シテ根本思想ノ議論ハ既ニ前段ニ述ヘテ置イタカラ、此處デハ事實ハ果シテ如何トノ問題ヲ解キテ見ヤウ。

余ハ先ヅ統計ニヨリ兌換券ノ發行額ト物價ノ變動トヲ比較シテ見タイ、

(註)物價ノ變動ハ據ルベキ確的ノ資料ガナイノデ仲々容易ニ知ルコト出來ナイ、只日本銀行ノ東京ニ於ケル物價調査、大阪朝日新聞ノ大阪ニ於ケル物價調査ガアルカラ、ソレヲ基礎トシ我國物價ノ變動ノ大勢ヲ考テ見ヤウ、

大阪ノ物價ハ明治三十五年中ノ物價チ一〇〇トシテ算出シ、東京ノハ明治三十三年十月ノ平均相場チ一〇〇トシ算出シ之ニ對シテ各月ノ變動ヲ示スモノデアル、

此處デハ、兌換券ノ膨脹ト物價騰貴トノ關係ヲ論シテ居ルノデアルケレトモ、次項ニ於テ物價騰貴ト輸出入ノ關係ヲ論スルカラ、序ニ兌換券ノ發行高、物價ノ變動ノ外ニ、輸出入ノ變動ヲモ一緒ニ表トシテ置ク。

問題ハ昨年來ノ物價騰貴ニ關係シテ居ルケレトモ、尙少シ溯テ比較對照ヲシテ見ナケレハナラナイカラ、明治四十五年以來ノ統計ヲ作テ見ルコトニシタ。

年 月	兌 換 券 發 行 高		物 價 指 數		外 國 貿 易		價 額	
	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超 入 超
明治四十五年一月	1000000000	1000000000	100	100	1000000000	1000000000	2000000000	0

論 說 兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號三八五) 八三

論說 兌換券と物價と輸出・輸入關係と論ス

第三卷 (第三號 三八六)

八四

年 月	兌 換 券	最 高	最 低	物 價	輸 出	輸 入	總 額	出 超	入 超
同 二 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 三 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 四 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 五 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 六 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 七 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 八 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 九 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 一 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 二 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
大 正 二 年	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 一 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 二 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 三 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 四 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 五 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 六 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 七 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 八 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 九 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 一 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 十 二 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
大 正 三 年	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超
同 一 月	兌換券	最高	最低	物價	輸出	輸入	總額	出超	入超

論 說 兌換券と物價と輸出ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號 三八七)

八五

年 月	兌 換 券	最 高	最 低	物 價 指 數	輸 出	輸 入	總 額	出 超	入 超
大正五年 同 一 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 二 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 三 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 四 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 五 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 六 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 七 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 八 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 九 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 一 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 二 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
大正四年 年 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 一 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 二 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 三 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 四 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 五 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 六 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 七 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 八 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 九 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 一 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超
同 十 二 月	兌 換 券	最 高	最 低	大 阪	東 京	輸 出	輸 入	總 額	出 超

三宅氏ハ輸出増加ノ後ニ物價ノ騰貴アリタリトノ事實ヲ舉ケテ兌換券ノ膨脹ガ物價騰貴ノ原因
 ダト説カレントスル様デアルガ、輸出増加ト物價騰貴トノ前後ヲ見テ兌換券膨脹ト物價騰貴トノ
 前後ヲ判スルコトガ出來ルカ知ラン、或ハ輸出増加シテ兌換券膨脹シ、兌換券膨脹シテ物價騰貴
 シタト説カントスル意カモ知レナイ、ソレニシテハ餘リ迂回的デアル、現ニ物價ノ騰貴ガ兌換券
 膨脹ニ先テルコトノ證據ガ舉ツタ以上ハ輸出増加ガ物價騰貴ヨリ前ニアツタコトヲ以テ反證トス
 ルコト出來ヌ、我國ニテハ毎年後半期ニ於テ輸出ノ増スノヲ常例トシテ居ル、明治四十五年以來
 ノ統計ニ徴シテモサウデアル、(大正三年ハ歐洲戰爭勃發ノ年ナレハ例外デアル、)故ニ輸出カ盛
 ニナリテ兌換券ガ膨脹シ、兌換券ガ膨脹シテ物價ガ騰貴スト云フ論理ヲ探レハ、毎年後半期ニハ
 物價ガ騰貴スト云フ結論ヲ下サネバナラス、併シ乍ラ、ソレハ實際ノ事實ニ反スル、現ニ大正二
 年ノ如キ、サウナツテ居ナイ。

次ニ三宅氏ハ「物價騰貴ノ現象ガ一般的ナル事實ハ是非共兌換券膨脹ニ其原因ヲ求メサルベカ
 ラズ」ト論セラレテ居ルガ、併シ物價騰貴ノ現象ハ一般的ナリト云ヘナイヤウデアル、今之ヲ反
 證スル爲メニ各種ノ物品ニ就キ昨秋以來毎月ノ物價ノ變動ヲ示シテ見ヤウ

(註 昨秋以來毎月ノ物價變動ヲ戰前ノ物價并ニ戰爭勃發後最モ下落シタトキノ物價ト比較センカ爲メニ、大正三年七月、并ニ
 同十二月ノ物價トナ井セテ表記シテ置ク、)

大正三年七月		同 十二月		大正四年九月		同 十月		同 十一月		同 十二月	
米	立	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪	東京
	白	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
米	立	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111
	白	111	111	111	111	111	111	111	111	111	111

(三) 織工業品

製綿

白木綿

二六〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

製毛

毛斯綸

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

麻

麻

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

銅

銅

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

洋鐵

洋鐵

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

洋釘

洋釘

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

(四) 金屬類

錫

錫

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

鉛

鉛

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

亞鉛板

亞鉛板

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

石炭油

石炭油

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

石炭

石炭

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

薪炭

薪炭

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

木材

木材

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

煉瓦

煉瓦

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

建築用セメント

建築用セメント

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

肥料

肥料

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

魚糞

魚糞

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

二二〇元

論說

兌換券と物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號三九一)

八九

節卵

(三) 工業製品

製組

製法

寐

平

蓮

兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號 三九三)

九

[illegible]

之ヲ要スルニ物價騰貴トハイフモノノ其最モ甚シキモノハ金屬類デ、纖維工業品、雜品之ニ次
グ、穀物并ニ其他食料品ニ至テハ最モ甚シク騰貴シタル時即チ昨年十二月頃デモ猶戰前(大正三
年七月)ノ價格ニ及バナイモノガアル。

何レノ時ニ於テモ物價ノ騰落ハ總テノ財ニ通シテ同様タルコトハナカラウガ、昨年秋以來ノ物
價騰貴ハ餘リニ區々デアル、若シ昨年秋以來ノ物價騰貴ガ兌換券膨脹ノ爲メニ來タノデアリトス
レハ尙少シ一般的デナクテハナラナイ筈デアル。

若シ或ル種ノ物價ノ下落シタモノト他種ノ物價ノ騰貴シタモノト相互ニ差引シタル後尙物價ノ
騰貴シタ所ガアルノヲ、物價騰貴ガ一般的デアルド云ヒ、ソレガ兌換券ノ膨脹ヨリ來リタト云フ
ナラバ、財ノ需要供給ニ變動ナカツタコトヲ證明セネハナラヌ、然ルニ、昨年以來軍需品製造ノ必
要上金屬品其他原料品ニ非常ノ需要ガ起リタコトハ何人モ疑ハサル所デアル財ノ需要ニ變動ナカ
ツタコトハ到底之ヲ説明スルコト出來マイ。

既ニ金屬類其他原料品ニ非常ノ需要カ起レリトシ、又實際ニ其等ノ品物ノ價ガ暴騰シタトスレ
バ、ソレガ物價騰貴ニ先鞭ヲ著ケタト見ルベク他ノ物價モ次第二之ニ隨伴シタト見ルベキデアル
要之、昨年秋以來ノ物價騰貴ハ兌換券膨脹ノ結果デナイ。

第二 物價騰貴ト輸出入ノ關係

物價ノ騰貴ト輸出入トノ關係ニ就テ余ハ本誌三月號ニ於テ左ノ如ク論ジタ⁶⁾

物價騰貴ハ常ニ輸入ヲ刺激シ輸出ヲ減退セシムルカト云フニ、ソレガ一國丈クニ起ツタノナラバ正シク當テ得タル論ト評セテバナラス、併シ物價騰貴ハ現今歐洲諸國ニ起リツツアル大現象デアル、吾々ハ尙進テ我國ト外國ト何レガ激シク騰貴シテ居ルカナ明ニセナケレバ、果シテ輸入ヲ刺激シ輸出ヲ減退セシムルカト云フコトヲ斷言スルコト出来ナイ、若シ輸入が多クナリ輸出ガ減退スルトセバ、物價騰貴ハ歐洲諸國ヨリモ我國ニ於テ甚シト云フコトヲ説キ得テバナルマイ、

處テ我國ニテモ物價ハ騰貴シテ居ルガ、歐洲諸交戰國ノ物價ハ更ニ騰貴シテ居ルヤウニ思ヘル、勿論或ル一定ノ財ニ就テハ却テ反對ニナルコトモアルカモ知レヌガ大體カラ云フト斯クノ如ク結論セネバナラス、

我國ノ物價ヨリモ外國ノ物價ノ方が高クナリテ居ルトスルト、我國ノ輸入ガ刺激セラレルト云フコトモ云ヘナカラウシ、又我國ノ輸出ガ大ニ減退ハトモ云ヘナカラウ、要スルニ此點ヨリスルモ論者ノ議論ニ徹底セナイ所アリト云ハネバナラス

此議論ニ對シテ河津博士ハ何等批評ヲ下サレテ居ナイ只「物價騰貴セバ其原因ノ如何ヲ問ハズ輸入ヲ増加シ輸出ヲ困難ナラシムルコトハ明ナリ」ト斷セラレテ居ルノミデアル。

三宅氏ハ之ニ反シテ或ル程度ニ於テ卑見ニ贊同セラレテ居ルガ、左ノ二點ニ於テ反對セラレテ居ル様デアル⁷⁾

一、我國物價騰貴ガ貿易ニ影響ナシト論結スルニハ世界物價ノ一般の騰貴詳言スレバ少クトモ我對外貿易關係國ニ於ケル我取引商品ノミニ就テモ略同一程度ノ一般の騰貴アリシ事實ヲ舉ゲザルヘカラス、然ルニ博士ハ單ニ歐洲交戰國ノミニ就テ物價騰貴ノ事實ヲ述ベ他ニ及バス、我貿易國ハ單ニ博士ノ舉ゲラレタル歐洲交戰國ニ限ラルルニアラズ況ヤ是等ヲ以テ主要取引國トナササルニ於テチヤ、

二、歐洲交戰國ノ物價騰貴ハ之ヲ肯定スルモ其國貨幣ノ國內價值ヲ以テ定メラレタル物價ノ騰貴ハ必スシモ國際價格ノ騰貴ナ

論 說 兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號 三九七)

九五

6) 一四頁以下

7) 三四學會雜誌十卷四號一四八頁以下

意味セサルコトアリ得ベシ、果シテ然ラバ歐洲交戦國ニ於ケル物價ノ騰貴ハ博士ノ言ノ如ク我物價騰貴ニ比シテ其程度大ナリト言フヲ得ベキカ、

三宅氏ノ批評ハ最モ人ノ疑問ヲ起ス點ニ向テ下サレテ居ル、故ニ余ハ茲ニ此二點ニツキ説明セネバナラス。

一

余ハ曩ニ我國ノ物價ハ騰貴シタニセヨ歐洲交戦國ノ物價ハ更ニ騰貴シテ居ルカラ、必スシモ我輸出ヲ減退スルモノデナイト論シテ置イタガ、ソハ主トシテ三宅氏ノ所謂國內價值ヲ見テ居ルモノデアル、所ガ貨物ノ輸出入ニハ更ニ爲替關係ヲ見ネバナラス若シ我國ヨリ歐洲宛ノ爲替カ騰貴(受取勘定)シタトスレバ我國ノ品カ輸出セラルルモ歐洲人ハ事實上多ク支拂ハチバナラスコトニナリ、我商品ノ物價カ高イノト同シ結果ニナラウ、三宅氏ノ例ヲ假リ對佛爲替ガ平時二法五五參デアルノニ、二法九一參トナツタトセンニ、佛人ハ我商品ニ對シテ二法九一參ノ割合ニテ支拂ハチバナラス、此ク見來レバ我國ノ輸出ハ減シ輸入ハ増スベキ様デアル、處ガ問題ハ所謂貨幣ノ對外價值ノ變動計リデハ決マラナイ、貨幣ノ對外價值ト物價騰貴トヲ比較シ更ニ貨幣ノ對內價值ト物價騰貴トヲ比較セネバナラス、若シ佛國爲替ガ二法九一參トナツテモ佛國ノ物價ガ例ヘハ從來二法五五參位デアツタノニ三法又ハ四法ニモ騰貴シタトスレハ如何又佛國ノ物價ハ三法ナリ四法ナリニ騰貴シタルニ其貨幣ノ對內價值カ減セナカツタナラハ如何、此ノ如キ場合ニハ日本ノ物價騰貴カ佛國ノ物價騰貴程甚シカラサル以上我輸出ヲ減退セシムルコトモナク我輸入ヲ増スコトモナイ、

ソコデ余ハ茲ニ歐洲ノ物價騰貴ノ程度、金ノ打歩ノ程度、爲替騰貴ノ程度ヲ調べテ見ネバナラヌ
先ツ物價騰貴ニ就テ考フルニ、歐洲交戰國ノ物價騰貴ハ頗ル人ヲ驚カスモノガアル、英國ノ物價
騰貴ハ The Economist⁸⁾ノ物價指數デ之ヲ知ルコトガ出來ル今之ニ依ルト左ノ如クデアル

年 月	穀物肉類 (茶砵糖等)	他ノ食料品	纖維工業品	鑛 產 物	雜品(ゴム 油木材等)	計	百分比ノ 變動
一九〇一—五年平均	500	500	500	500	500	500	100.0
一九一四年一月	553	553	553	553	553	553	110.6
同 四月一日	560	560	560	560	560	560	112.0
同 七月一日	566.5	566.5	566.5	566.5	566.5	566.5	113.3
同 七月末	577	577	577	577	577	577	115.4
同 八月末	581	581	581	581	581	581	116.2
同 九月末	586	586	586	586	586	586	117.2
同 十月末	586.5	586.5	586.5	586.5	586.5	586.5	117.3
同 十一月末	588	588	588	588	588	588	117.6
同 十二月末	591	591	591	591	591	591	118.2
一九一五年一月末	596	596	596	596	596	596	119.2
同 二月末	600	600	600	600	600	600	120.0
同 三月末	607	607	607	607	607	607	121.4
同 四月末	612	612	612	612	612	612	122.4
同 五月末	618	618	618	618	618	618	123.6
同 六月末	626	626	626	626	626	626	125.2
同 七月末	631	631	631	631	631	631	126.2
同 八月末	636.5	636.5	636.5	636.5	636.5	636.5	127.3
同 九月末	643.5	643.5	643.5	643.5	643.5	643.5	128.7
同 十月末	651	651	651	651	651	651	130.2
同 十一月末	657.5	657.5	657.5	657.5	657.5	657.5	131.5
同 十二月末	664	664	664	664	664	664	132.8

論 說 兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

第三卷 (第三號 三九九)

九七

一九一六年一月末	九四六・五	四六五	七二・五	七六・五	八八四・五	六四〇	一四・五
同 二月末	九八三	五〇〇・五	〇・五	〇・五	八七五・五	五〇〇	一〇・一
同 三月末	九三九・五	五〇一	三六・五	三六・五	八七一	五〇一	一〇・五
同 四月末	九三〇・五	五一一	三六・五	三六・五	八七〇	五〇一	一〇・五
同 五月末	一〇一三・五	五二二	〇・五	〇・五	八六二	五〇一	一〇・〇

之ヲ見ルト英國ノ物價ハ戰爭以來本年五月迄ニハ七割モ騰リテ居ル我國ノ物價カ戰前ヨリ二割カ
二割半位ノ騰貴ニ過ギナイノト比ヘルト天地霄壤ノ差ガアル

佛獨等ノ物價騰貴モ亦頗ル甚シイ今 Whitaker ノ研究ヲ借りテ之ヲ述ヘテ見ンニ、佛國ノ物價

ハ戰時ヲ一〇〇トスルト昨年十一月迄ニ一四九トナツテ居ル即チ戰爭十四ヶ月ノ間ニ五割騰貴
シテ居ル、今日ニ於ケル騰貴ハモツト甚シカラウ、獨逸ノ物價騰貴ハ更ニ之ヨリモ大ナルモノガア
ル即チ戰前ヲ一〇〇トスレハ昨年秋ニハ一七五、三トナツテ居ル、七割半ノ騰貴デアル、今日ハモ
ツト甚シク騰貴シテ居ラウ、是レ亦我國ノ物價騰貴ト比ヘルト同日ノ談デナイ。

以上述フルカ如ク歐洲交戰國デハ物價ハ非常ニ騰貴シテ居ル、然ラハ貨幣ノ對内價值ハ如何ト
云フ問題ニナルガ、對内價值ハ殆ト下落シテ居ナイ、之ヲ紙幣國ヨリイヘハ紙幣ノ正貨ニ對スル

下落即チ正貨ノ打歩ハ先ツ無イト謂ツテヨイ、一體紙幣國ニ於テ紙幣ノ下落ハ起ルニシテモ物價
騰貴ニ及ハナイコトハ歴史ノ證明スル所デアル、物價ガ騰貴スレハ、ソレ丈ク紙幣ノ對内價值ガ
下落スルト思フテハナラヌ、ソレ處デハナク今回ノ戰爭デハ、物價ハ彼カ如ク騰貴シテ居ルケレ
トモ貨幣ノ對内價值ハ下落シテ居ナイ、Whitaker ハ又此點ニ於テモ研究ヲ遂ケ正貨ニ對スル眞
正ノ打歩ハ獨逸ニ於テモ佛ニ於テモ英國ニ於テモ未タ之ヲ見ナイ打歩ト通常イハレテ居ルモノハ

9) Whitaker. Currency Depreciation in time of War(The quarterly Journal of Economics Vol XXX. No. 2 p. 252-)

inferential premium on gold デ、爲替相場ヨリ推算シタモノデアルト云ツテ居ル、

ソコデ余ハ進デ貨幣ノ對外價值ノ變動ヲ明ニセテハナラス、ソレニハ爲替相場ノ變動ヲ見ネハナラス矢張り Whitaker ノ研究ヲ假リテ來ル⁹⁾、ソレニ據ルト弗ヲ標準トシテ磅、法、麻ノ爲替相場ハ左ノ如ク變動シテ居ル。

Francs (Par 5. 1826 francs per dollar 1 or 193 cents per franc)			
Premium or Discount	Rate in Cents	Sight Rate at quoted	Date
Premium 5.7 %	20.4	4.901	1914 Period till middle of October
Premium, 1.2 %	19.53	5.122	
Premium 1.6 %	19.63	5.09 $\frac{1}{2}$	Week ending Nov. 27
Discount 14.9 %	16.58	9.032	1915 Sept. 1
Discount 11.6 %	17.07	5.862	last week of December

Sterling (Par 4.8665)		
Premium or Discount	Rate for Cable	Date
Premium 44 %	7.00	1914 First week in August
Premium 28 $\frac{1}{2}$ %	6.25	(Same)
Premium 4.2 %	5.07	Aug 28
Premium 1/7 of 1 %	4.87 $\frac{3}{4}$ 4.86 $\frac{1}{2}$	Nov. 13 Dec. 24
Discount 7 $\frac{1}{2}$ %	4.50	1915 Sept I
Discount 2.6 %	4.74	End of Dec.

論 說 兌換券ト物價ト輸出入ノ關係ヲ論ス

Marks

(par 95. 284 as rate is quoted, or 23.8 cents per mark)

Early period	Rate	Premium or Discount
No quotations till middle of August 1914		
"Nominal" quotation till the week ending October 9, 1914	97 (highest)	1.8 % Premium
Range in Period of nominal quotation	91 $\frac{3}{4}$ (lowest)	3.7 % Discount
September 1, 1915	80 $\frac{5}{8}$ "	15.4 % "
Last week in December 1915	75 $\frac{1}{8}$ "	20.7 % "

ルト云フ論ハ立タス。

二

余ハ三月號ニ於テ歐洲交戰國ノ物價ノ騰貴ヲ説テ他ノ國ニ及バナカッタ、ソレト云フモ歐洲戰爭ガ物價ニ變動ヲ及ボシ歐洲戰爭ガ又貿易ニ大影響ヲ及ボシテ居ルノデアルカラ、歐洲ヲ中心トシテ考ヘタカラデアル、蓋シ歐洲戰爭ハ交戰國ノ物價ヲ動カシタノミデナク中立國ノ物價ヲモ動カシテ居ルラシイ、歐洲ノ中立國ハ名コソ中立國ナレ經濟上ノ影響ニ於テハ毫モ戰爭當事國ト異ル所ナイ、歐洲以外ノ中立國ニテモ、歐洲交戰國ニ軍需品ノ供給ヲ爲スモノニアリテハ其軍需品

第三卷 (第三號四〇二) 100

之デ見ルト昨年十二月ニ於テ米貨ニ對シ英貨ハ 2.6% 佛貨ハ 11.6% 獨貨ハ 20.7% 下落シテ居ルト云フベキデアル。

以上論スル所ニ據ルト英佛獨等ノ物價騰貴ハ戰前ニ比シ五割乃至七割半デ其騰貴ノ度合ハ我國ノ物價騰貴ノ度合ノ二倍三倍デアル之ニ比スルト爲替騰貴即チ對外價值ノ下落ハ僅カノモンデアル、對內價值ニ至テハ更ニ殆ト下落シテ居ナイ果シテ然ラハ我國ノ物價騰貴スルモ輸出減退シ輸入増進ス

ニ關係セル諸種ノ財ノ價格ハ騰貴スル傾キガアリ又從來歐洲交戰國ヨリ諸種ノ財ノ供給ヲ仰イデ居ツタ所デハ其財ノ價格ガ騰貴スル傾ガアルベキデアル、我國ハ交戰國デアルケレドモ經濟上ニ於テハ中立國ニ類似シテ居ル、我國ノ受ケタ影響ハ多クノ中立國モ受ケタト云ヘル、殊ニ米國ニ於テ然リトスル、果シテ然ラハ物價ノ騰貴ハ多少ノ例外ハアルシテモ世界ノ大國ニ於テハ普遍的デアルト云フテヨロシイ、只、世界諸國ニ於テ實際ドレ位物價ガ騰貴シテ居ルカ調査ノ資料ニ缺クモノガアルカラ諸國ニ就テ別々ニ悉ク之ヲ立證スルコト出來ナイ、ソコデ余ハ最モ人ノ首肯スベキ交戰國ニ就テ之ヲ述ブルニ止メテ置イタ次第デアル。

歐洲交戰國ノ物價騰貴ト我國ノ物價騰貴トヲ比較シタ丈デ足ラナイノハ三宅氏ノ論セラルル通リデアルガ、併シソレデ大體ノ目度ハ付ク、何故ト云フニ此比較デ歐洲トノ貿易ヲ判斷スルコト出來ルノミナラズ、我國品ガ歐洲品ト競争ノ地位ニ立ツベキ國々ト我國トノ貿易ヲ判斷シ得ルカラデアル。

歐洲交戰國ノ物價ノ騰貴ガ戰時ニ於テモ戰後ニ於テモ我國ノ物價騰貴ヨリ甚シトスレバ歐洲貿易ニテハ我國ノ輸出ハ依然トシテ變スルコトナカラウシ我國ヘノ輸入ハ爲ニ甚シクナルコトナカラウ、東洋南洋印度濠洲等ノ貿易ニテハ我國ノ物品ガ歐洲品ニ打勝テ賣レテ行クカラ我國ノ輸出ハ減退スルコトナカラウ、此理屈ハ對米貿易ニ就テモイヘルノデアルガ、對米貿易ニ於テ我國ノ輸出ハ七八割迄ガ生糸等デアル、而シテ世界ニ於ケル生糸ノ相場ハ實ハ橫濱市場デ大體定マルノデアルカラ、我國ノ物價ガ騰リタルガ爲ニ米國ヘノ輸出ガ減スルト案スルニハ及ブマイ。

以上論スル如クンバ我國ノ物價ガ騰貴シタトテ強チ輸出ガ減退シ輸入ガ増進スルモノト結論スルコト出來ナイ。

三

以上ハ理論ノ上デ我國ノ物價騰貴ガ必スシモ輸出ノ減退、輸入ノ激増ヲ來スモノデナイコトヲ論シタノデアルガ、余ハ進デ最近ノ事實ハ如何様ニナツテ居ルカヲ調べテ見ネバナラヌ。

既ニ前項ニモ論シタ如ク、我國ノ物價ハ昨年十月頃ヨリ騰貴シ初メ月々其速力ヲ加ヘ本年三月ニ至テ頂點ニ達シテ居ルノデアルガ、其物價騰貴ノ爲ニ輸出ガ減ジテ居ルカト云フニ、サウデナイ、却テドン／＼増シテ居ル、殊ニ物價ノ騰貴シタ十月、十一月、十二月ガ昨年中デ最も輸出ノ多カツタ時デアルデハナイカ。

又本年ニ入りテモ物價ハ一月、二月、三月ト漸次騰貴シタガ輸出ハ之ト並行シテ増シテ行テ居ルデハナイカ。

次ニ我國ノ物價ガ騰貴シテ輸入ハ増スカト云フニ昨年ノ十月、十一月ハ全ク之ニ反シテ却テ減シテ居ル、本年ニ入りテ輸入ハ増加シテ居ルガ、ソレハ輸入時期ニ入りタルガ爲メデアル、之ヲ大正二年ノ初メニ於ケル物價下落ノ傾向アル時ニ比ヘテ見ルモ殆ト同一様ノ趨勢ヲ發見スルコトガ出來ル、果シテ然ラバ昨年來ノ物價騰貴ガ輸入ヲ増進シタトハ云ヘナイ。

以上論スル所ニ依テ之ヲ觀レバ物價ガ騰貴スレバ常ニ輸出ヲ減退シ輸入ヲ増進スルモノト斷スルコト出來ヌ。